

「平成26年度 大口高校「N I E」の取組

鹿児島県立大口高校 立和名猛

1. 本年度の取組

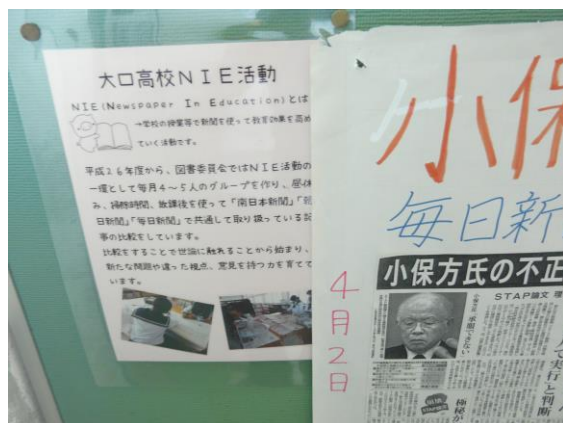
- ①図書館との連携
- ②総合的な学習との連携
- ③表現学習との連携

2. 実践内容

① 図書館との連携

図書委員による新聞掲示（4月：同一対象の3社の新聞社の記事を追跡）

図書委員と連携して、校内掲示を実施した。社会面、コラム、地域の記事などを取り上げることで、新聞記事に親しませつつ社会的な話題に興味・関心を持たせるねらいであった。図書委員の活動の一つとして今後も継続していきたい。



② 総合的な学習との連携

本年度は、総合的な学習の時間の取組として「地域貢献」を実施した。そのことによって、ボランティア活動に対して積極的に取り組む雰囲気が生まれた。その雰囲気の醸成に、一つは新聞記事の中から「地域貢献」に関する記事を探す取組を行ったことと、生徒達の活動が新聞記事によって紹介されたことが効果的だった。新聞が「地域」を取材の対象としていることや、地域の活動に積極的に関与したりボランティア活動を行ったりすることで新聞記事になることを知ることができた。社会参加の意義等を新聞記事を通じて知ることができた。



平成26年5月22日には、南日本新聞社の堀巨氏の講演を実施した。新聞記者になった動機や地域への取組などの話を聞くことができた。新聞に対する理解や地域貢献の意義等を理解することができた。

③表現学習との連携

a、「朝のコラム」新聞記事を読み感想を書く。週1回の取組。

今年度は3学年を中心に行った。社会全般に関する情報を知るきっかけとするとともに、感想を書くことによって、小論文対策の一つとして実施した。

①朝課外とSHRの間の15分間を利用（8：20～8：35）

- ②新聞記事（コラム以外もあり）を読み、気になった箇所に傍線を引き、感想文を記入する。
- ③担任・副担任がチェックする。
- ④新聞記事の選択は学年部で担当する学年の実情に合わせて選び読ませる。
- ⑤（ねらい）新聞記事を読むことを通して、世の中のことについて関心を持ち、また、その感想を書くことで、自分の考えを広げ深めさせる。

b、新聞の教室設置。

普段から新聞を目にする機会を増やすために行った。図書館だけでなく、身近な教室に設置することで、新聞に親しむことを図った。

c、小論文指導

3年生においては、大学・短大・専門学校等で、小論文が入試として課されている。以下の指導において新聞を活用した。

- ・「社説」を読み、要約と意見文を書く。
- ・「コラム」を読み、意見文を書く。
- ・全ての記事に目を通して、自分にとって必要な記事を切り抜き、意見文を書く。その際、分からない言葉・専門用語などを調べる。

3カ月ほどの長い期間取り組む生徒もいたり、1カ月ほどの短い期間で集中的に取り組む生徒もいたりした。

大学等の過去問を解き傾向をつかんだ上で自分の必要な知識を得たり、要約の練習をしたり、意見文を書く材料にしたりすることができた。

「現代用語の基礎知識」や「日本の論点」も教室に置くことで、総合的に活用できるように工夫した。

3. 成果と課題

本年度の実践は、新聞を読む機会を与え親しむことに加えて、入試等で活用させることをねらった。図書委員の実践、総合的な学習の時間との連携などが本年度新しく取り組んだことだった。日常的に新聞に親しむ態度や、新聞の地域に果たす役割など、多くのことを学ぶことができたのではないかと考える。

課題は、多くの先生方と連携し、計画的に実施していくことであった。特に、総合的な学習の時間の取組は、他の先生方の協力が必要である。1年間の流れを示し、その上で新聞をどう活用していくかを明確にしておく必要があった。できれば、総合的な学習の時間だけでなく、3年間の指導の中で「新聞」をどう活用していけばよいか、もっと考えていきたい。